

活動内容報告書

団体名		NPO法人美ら島きこえ支援協会	
直近3か月活動報告	2019年 12月 15日	「浦添市議会 議場ヒアリンググループ設置確認 & 議長表敬訪問」	
	2019年 12月 19日	「聞こえない、分からないを楽しむ！演劇ワークショップ」	
	2020年 2月 16日	「2019年度 第1回 美ら島きこえのシンポジウム ～ 旅の思い出に彩りを～」	



ヒアリンググループを試聴した比嘉誠伸理事長（中央）と島尻忠明議長（左から2人目）ら＝浦添市議会

難聴者ら試聴 効果確認

【浦添】市議会（島尻忠明議長）では昨年12月定例会本会期から、難聴者の聞こえを支援する設備「ヒアリンググループ（磁気ループ）」を設置した。美ら島きこえ支援協会の比嘉誠伸理事長らが会談を傍聴し、聞こえ方を確認した。協会によると、議場でのヒアリンググループ活用は県内初とみられる。

ヒアリンググループは、補聴器や人工内耳を特定のモードに切り替えることで、周りの騒音や雑音に邪魔されずに目的の音や声だけを聴ける設備。議場では議長の発言などが聞けるようになる。自らも中度難聴者である上江洲徹也市議が比嘉理事長らに傍聴席で効果を確認してほしいと依頼した。

比嘉理事長の聞こえは好調だったが、宮良康作理事と渡久地雄事務局長は不調だったという。

比嘉理事長は傍聴後、島尻議長に「補聴器の性能により聞こえやすさが左右されるように、全体に届くよう調整してほしい」「高齢で設備を必要としている議員もいるかもしれない。傍聴席だけでなく議員席まで範囲を確保してほしい」と助言した。そのほか、音源認識アプリ「UDトーク」の導入も要請した。島尻議長は「体感した上での意見はありがたい。設備を調整する」と答えた。

浦添議会聞こえやすく 議場に磁気ループ設置

2019年12月15日、浦添市の市議会議場にて、補聴支援システム「ヒアリンググループ」が導入されたとの連絡を受け、理事長含む会員3名で、運用状況を確認に向かいました。

市議会議場に設置されたヒアリンググループは、調整が不十分な状態であり、本会からの細かい調整作業の結果、本来の実力を発揮できる状態となりました。今後、議場を訪れる多くの難聴者の方々に有効活用されていくと思われます。

議場での体験と調整を終えた後、浦添市議会の島尻議長を表敬訪問し、浦添市におけるきこえの社会資源の充実の必要性を強く訴えました。



2019年12月19日、チームスポットジャンブル様との共催で、聞こえない・わからない状況をあえて楽しむ！をコンセプトに演劇ワークショップを開催しました。

ジェスチャーしりとり伝言ゲームでは、参加者の愉快的なジェスチャーが場を盛り上げ、終始賑やかな雰囲気が進みました。また、3チームに分かれて行った即興演劇では、言葉を介さずに気持ちや情報を伝える難しさ楽しさ、面白さに気付かされました。

健聴者と聴覚障害者の間にある目に見えない壁をどうやって取り払っていくのかの問いに対しての答えが見つかったように感じました。



2020年2月16日、浦添市てだこホールにて、聴覚障害者の観光アクセシビリティをテーマに「2019年度美ら島きこえのシンポジウム」を開催しました。

石川県より、金沢観光手話案内「かがやきR」代表、吉岡真人氏を講師に迎え、観光地に手話ガイドを設置するためにどう動いてきたか、なぜ手話ガイドが必要なのか等をご講演頂きました。

パネルディスカッションでは、パネラー4名から、沖縄の観光アクセシビリティ向上に向けた貴重な提言を頂きました。美ら島きこえのシンポジウムは次年度も開催予定です。

コメント

今年度は、定例会や会報誌の発行、きこえの個別相談、行政向け講習会の開催等を実施し、それらに加え他団体との共催事業（演劇ワークショップ）、きこえの環境整備の充実を目的とした行政請願、きこえのシンポジウム開催等を行ってきました。事業を通じて沖縄県の多くの方々に「きこえ支援」の必要性和有効性を広く啓発できたと実感しております。本会は、難聴者やろう者が楽しく充実した暮らしができるよう今後も、多くの方々のご支援とご理解を頂きながら活動して参ります。本会の活動にご興味をお持ちの方は、いつでもお気軽にお問い合わせ下さいませ。